

「自分探しの旅？」

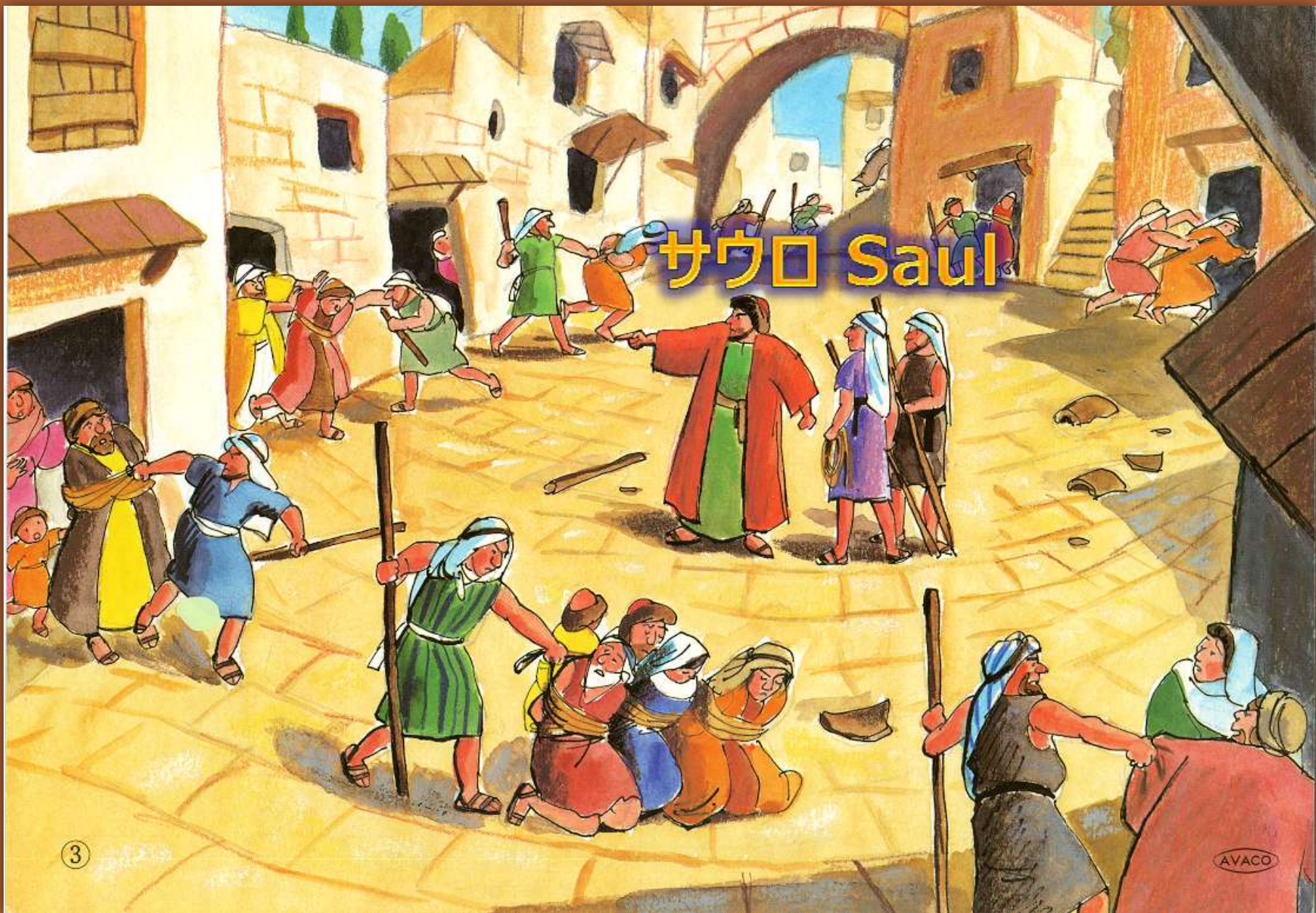
～サウロからパウロへ～

*“A Journey of Self-Discovery?:
From Saul to Paul”*

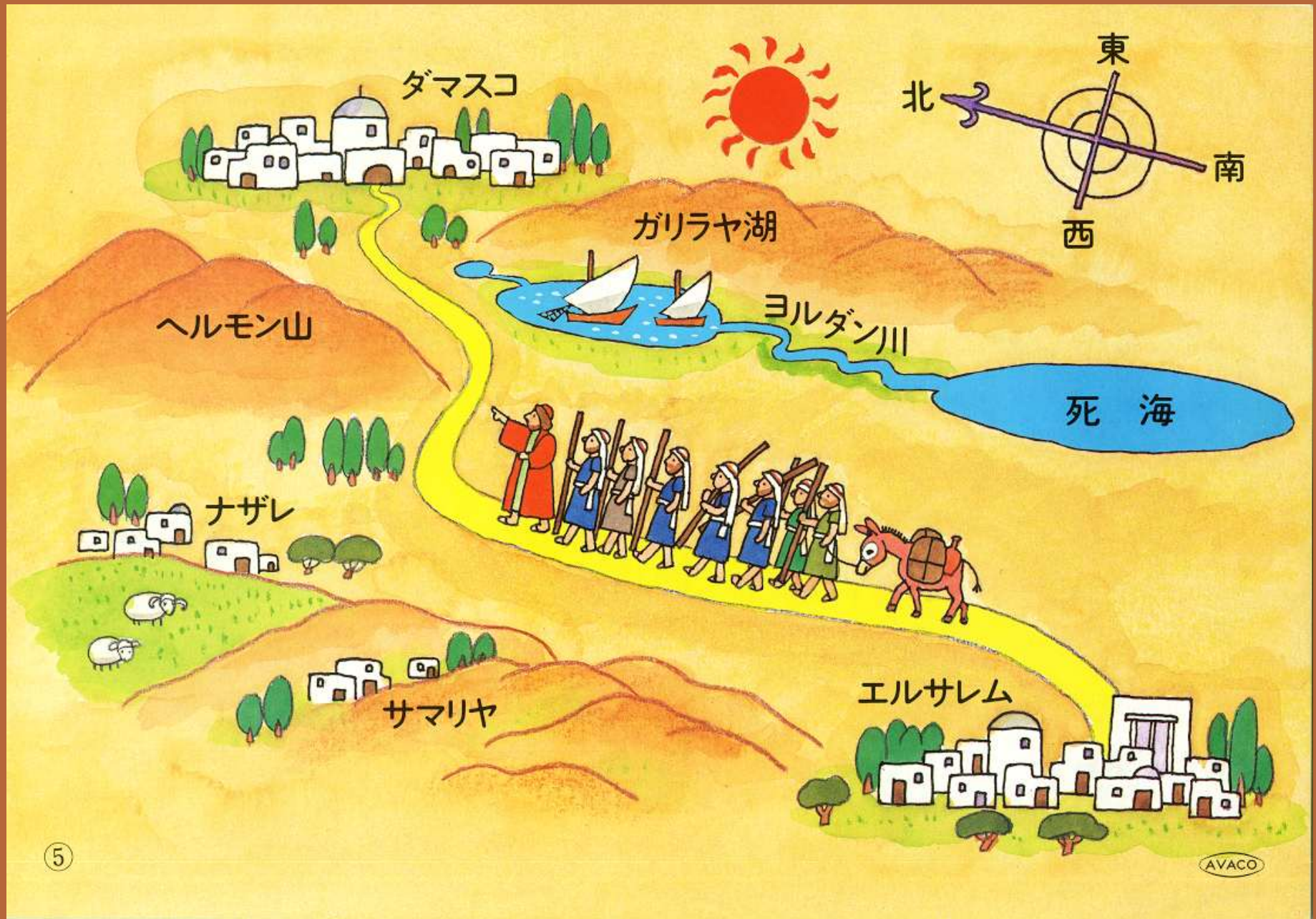
使徒 Acts
9:1～18

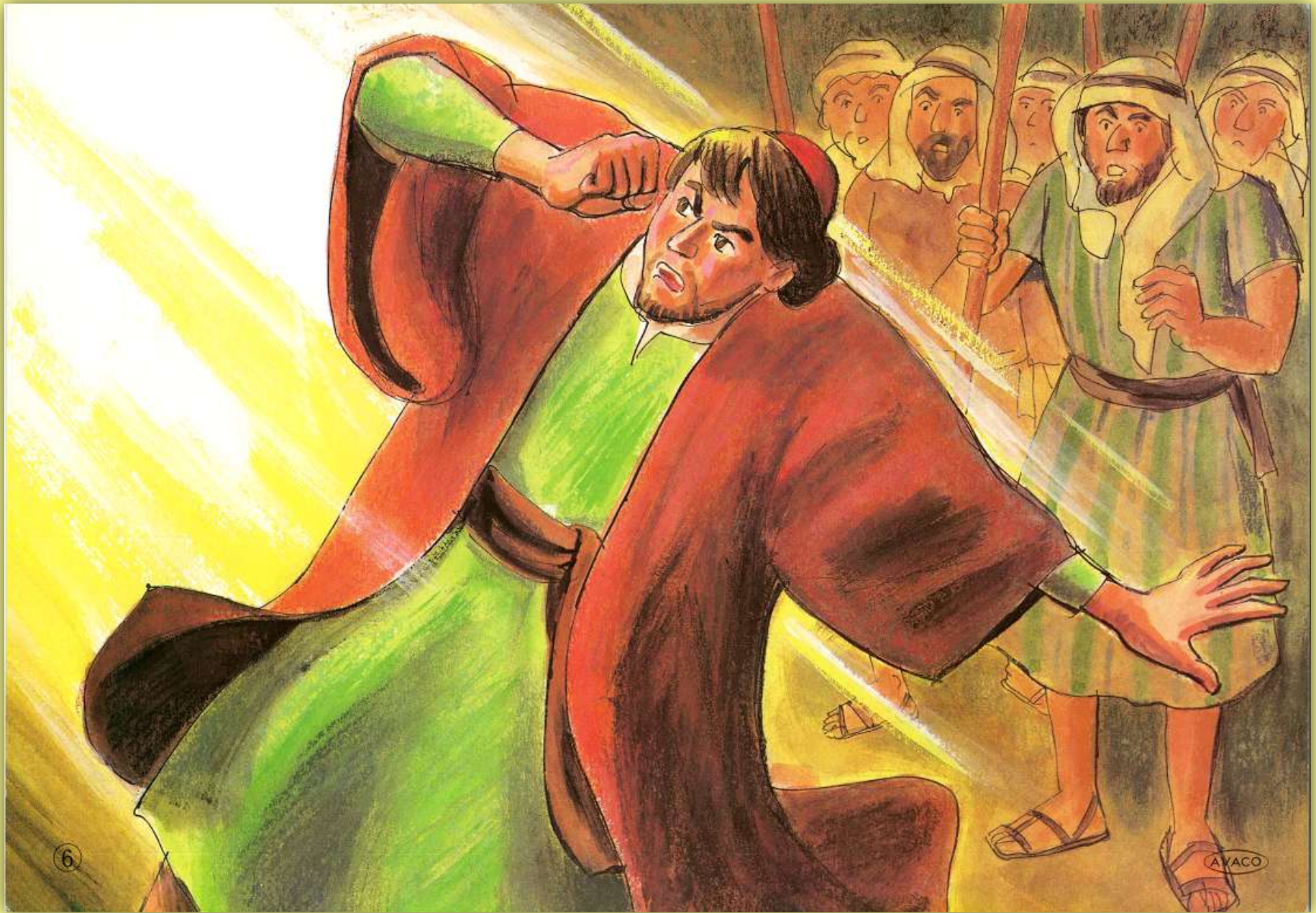


サウル Saul











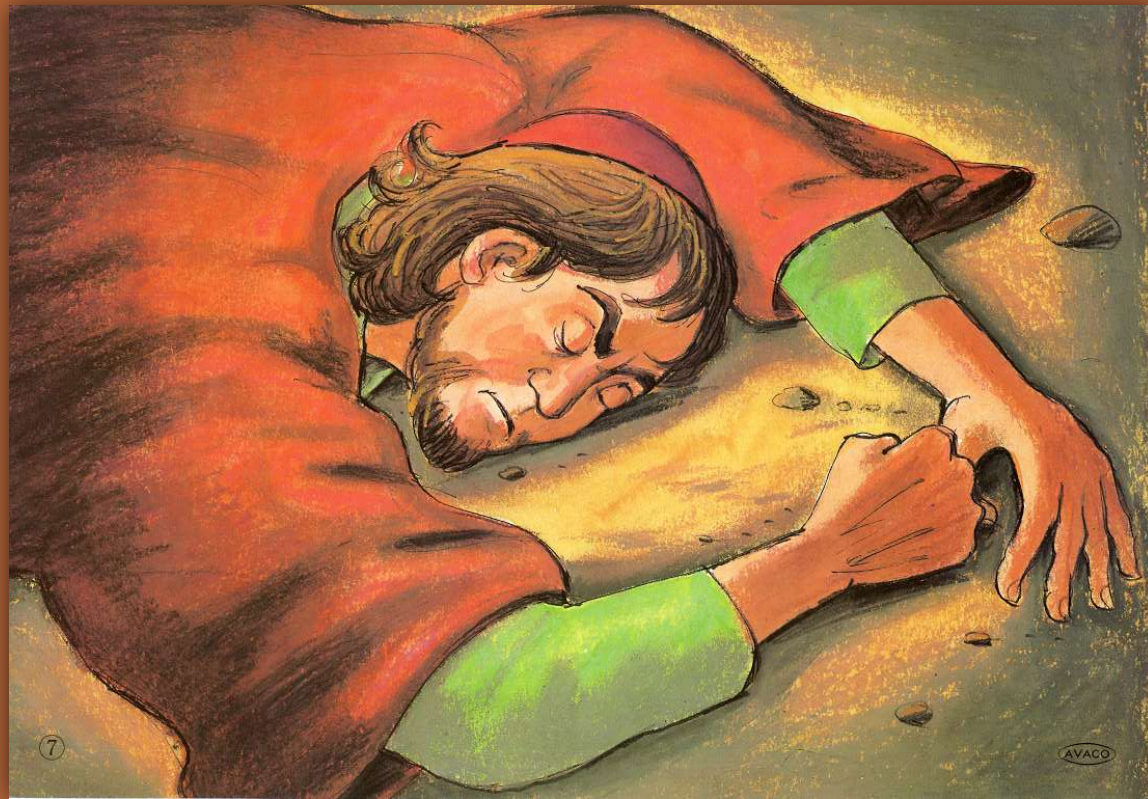
「サウロは地に倒れ」
（4節）

“He fell to the ground” (v.4)

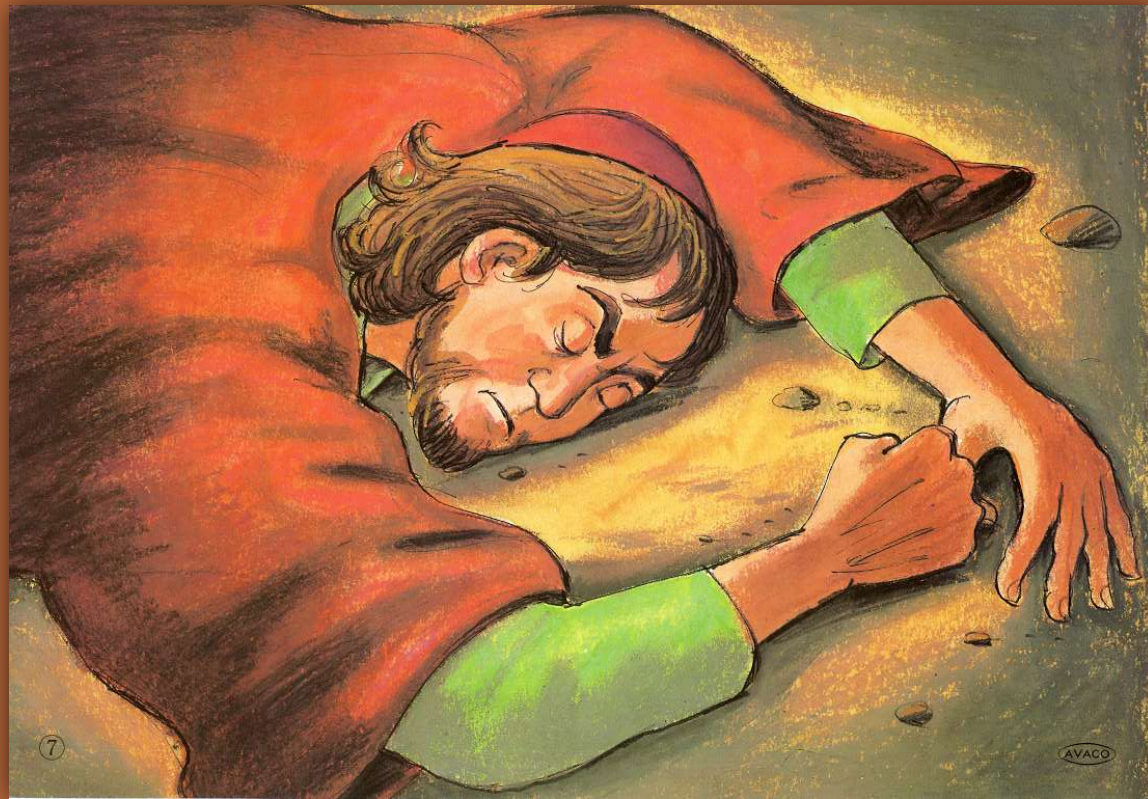


「サウルは三日間、目が見えず、
食べも飲みもしなかった。」（9節）

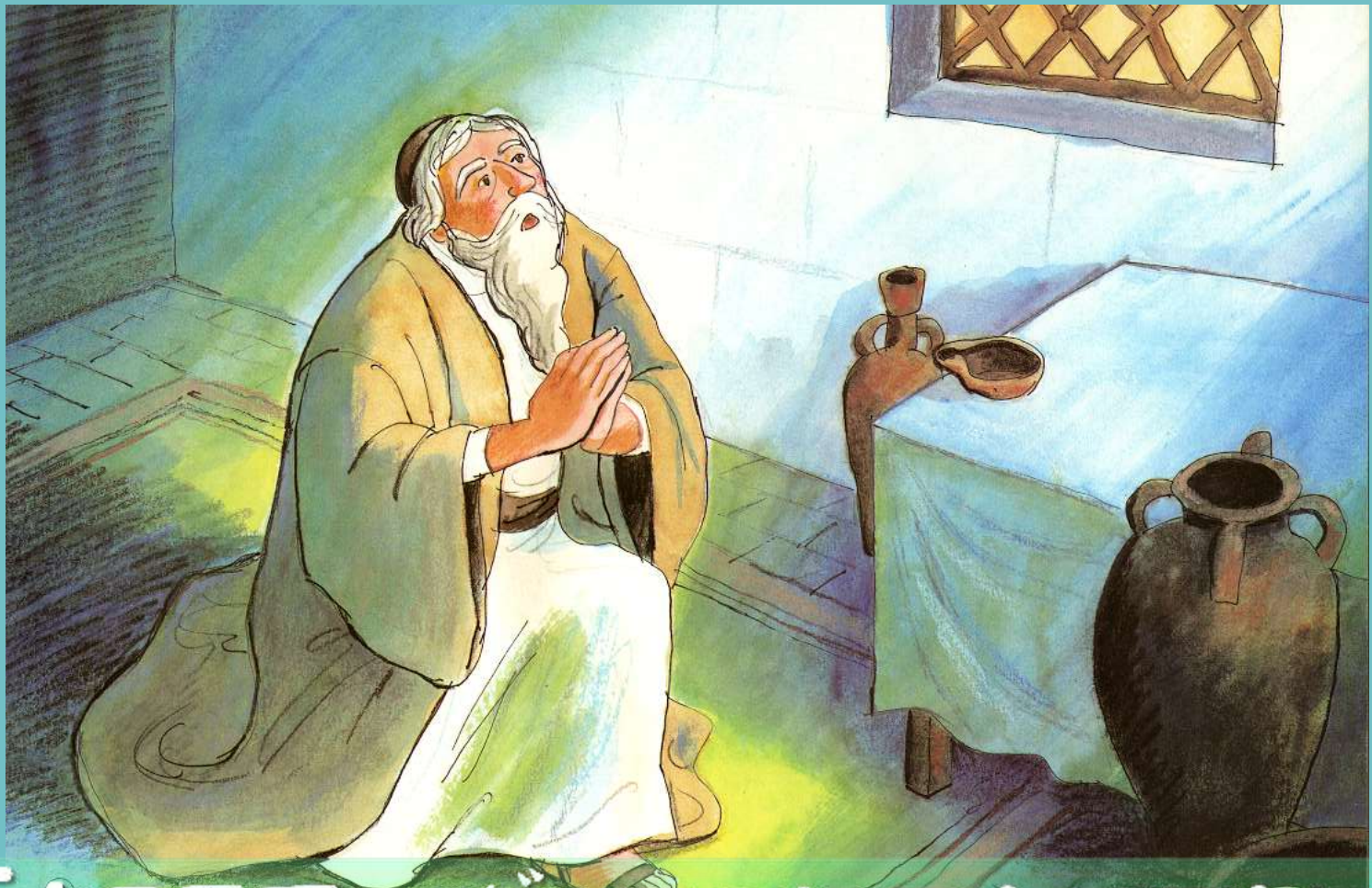
“For three days he was blind,
and did not eat or drink anything.” (v.9)



神様は、もう一度立ち上がらせ、
「**新しい人生**」を与え、「**使命**」をもって
歩むように、「**備え**」を用意して下さった。



God rose him again, gave him a **“new life”** and **“provided”** somebody so that he could go on with a **“mission.”**



「ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。」（10節）

“In Damascus there was a disciple named Ananias.” (v. 10)



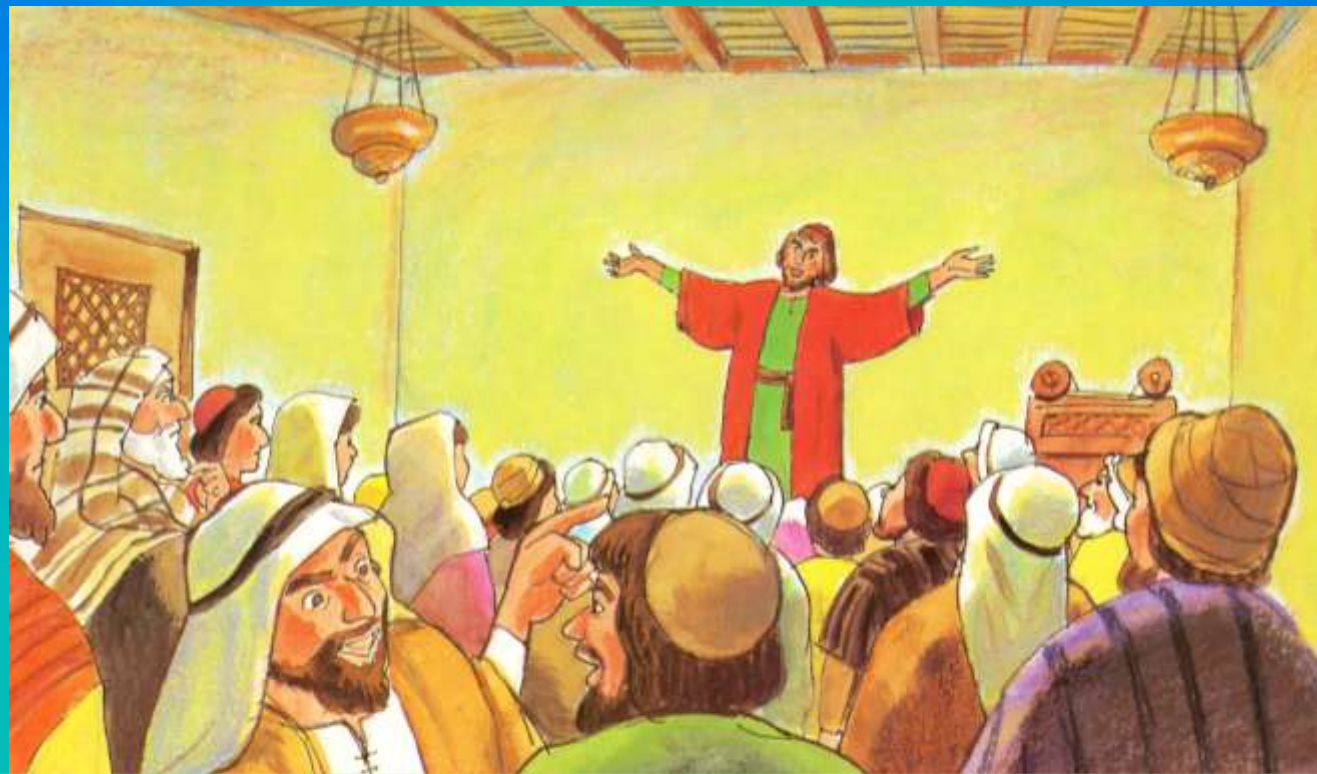
「そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。」
(17節)

“Then Ananias went to the house and entered it. Placing his hands on Saul ,he said,...” (v. 17)



「すると、たちまち目からうるこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。」（18節）

“Immediately, something like scales fell from Saul’s eyes, and he could see again.” (v. 18)



すぐあちこちの会堂で、「この人こそ
神の子である」と、イエスのことを
宣べ伝えた。」（20節）

“At once he began to preach in the synagogues
that Jesus is the Son of God.” (v. 20)

「かなりの日数がたって…」

（23節）

「わたしは、すぐ血肉に相談するようなことはせず、また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、**アラビア**に退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでした。」

（ガラテヤ1：16～17）

神とは何か。キリストとは誰か。
ゆっくりと整理して、考える時が
必要だった。

じっくりと聖書を読んで、自分の
身に起こった救いの御業を考えて
整理することは、「確信をもって
生きることの基本」となる！



「愚か者は自分の道を正しいと思う。

しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる。」

（箴言12:15 新改訳）

「自分が正しい」と思っている時ほど、
他の人を「裁きやすい」傾向にある。

“The way of fools seems right to them,
But the wise listen to advice.” (Prov. 12:15)

When we think we are right,
we tend to judge others.

サウロにとって、自分の限界、愚かさ、
罪を気づかせる出来事だった。

キリストの愛、神様の恵みを
受ける時となった！

私たちも、倒されなければ分からない、
大切な「経験」や「出会い」が
あるのでは？



「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。（2 コリント1:4）

“[God] comforts us in all our troubles, so that we can comfort those in any trouble with the comfort we ourselves receive from God.” (2 Cor. 1:4)

「誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう。」
(2 コリント11:30)

“If I must boast, I will boast of the things that show my weakness.”
(2 Cor. 11:30)

すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

(2コリント12:9~10)

But he said to me, “My grace is sufficient for you, for my power is made perfect in weakness.” Therefore I will boast all the more gladly about my weaknesses, so that Christ’s power may rest on me. ¹⁰ That is why, for Christ’s sake, I delight in weaknesses, in insults, in hardships, in persecutions, in difficulties. For when I am weak, then I am strong.

● 神を信じることは
人生からの逃避ではない。

● 過去を正直に見、
そこから悔い改めて、
神様に「立ち返る勇氣」と
過去のいろいろなことに対して
「直面する勇氣」を持つこと。

● 「サウロ」 Saul

= イスラエルの初代の王、

「サウル」から来た名前。

from the first king of Israel, Saul.



● 「パウロ」 Paul

= 「最も小さな者」 という意味。

“the smallest / most humble person.”

「王様」から「最も小さき者」へ。